



博物館の全国大会が津市で開催されました



日本にはいくつの博物館があるかご存知でしょうか？答えは、4,000 以上です。国立や都道府県立の大きなものから私立や個人経営の小さなものまで規模は色々ですし、歴史博物館や科学博物館、文学館や郷土資料館、美術館、それに動物園、植物園、水族館まで多種多様です。そんな博物館施設が会員となって、「博物館の健全な発達を図り、社会教育の進展に資するとともに、我が国の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的」とする組織が日本博物館協会です。昭和3年（1928）に発足し、現在は公益財団法人となっています。

協会は毎年、全国博物館大会を開催しています。今年は第 62 回目の大会。三重県の津市、三重県総合文化センターと4月に新装開館した県立の三重県総合博物館を会場に、11月19日～21日の3日間にわたって開催されました。大会テーマは「多様化する博物館～対話と連携で未来を探る～」。

1日目は昼過ぎから開会式と表彰式。表彰式では永年勤続表彰と博物館功労者表彰、研究や活動に対する表彰が授与されました。博物館活動奨励賞には当館の嶋館長も。続いて三重県知事による基調講演「日本の博物館/文化について、知事として思うこと」。三重県の自然や人・モノ・文化の交流。三重県の文化とアイデンティティ。総合博物館への思いと期待、

日本の博物館への期待を、熱く語られました。博物館は人々がそこに来て先人の遺徳を忍び、明日を生き出す力を得るところである、との見解が印象的でした。その後、全国博物館フォーラムで、科学、美術、歴史民俗、動物園水族館、文部科学省、文化庁の代表者が、それぞれの現状や展望を述べられました。夜は情報交換会。近年稀に見る500人以上の参加で、たくさんの質問や悩みを抱えながらも、博物館を素晴らしくしていこうという博物館人の熱気に会場は包まれました。

2日目、午前はシンポジウムで、テーマは「今、求められる新しい博物館像」。東京都美術館の建物と活動のリニューアルコンセプト、山口県萩市の「まちじゅう博物館」という町づくりの基本理念の中核施設としての萩博物館の役割、三重県の、市民による「まちかど博物館」の活動についての報告があり、どれもが大変素晴らしい実践でした。午後は分科会で、「中高生と博物館」「観光・まちづくりと博物館」「博物館資料をめぐる課題」の3グループに分かれての発表と討論。福井県恐竜博物館は、県ぐるみで恐竜という資源を利用して県の活性化に努め観光客を誘致していること、博物館の最も大切な使命・原点は、資料を収集し保管保存することである、というのが印象に残りました。（6面に続く）

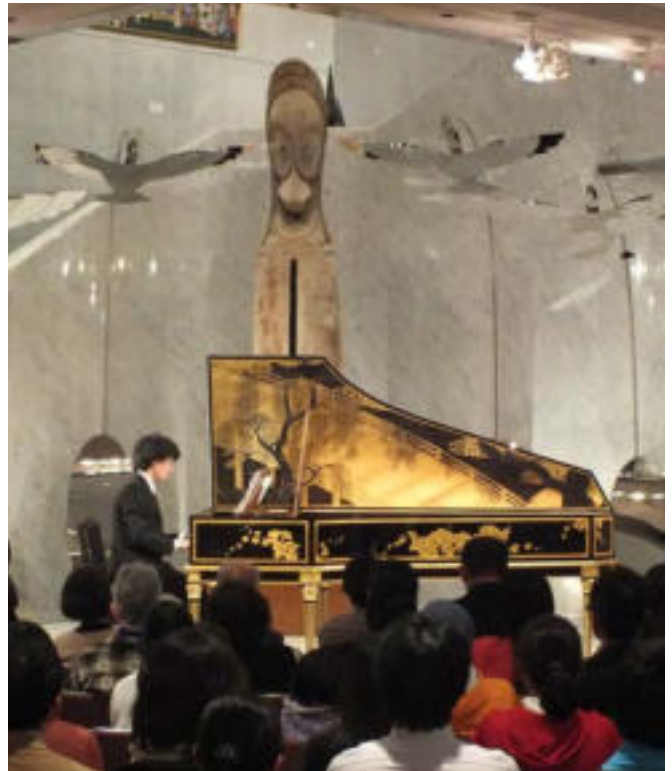
イブニングサロンコンサート

「国際古楽コンクール〈山梨〉2014 入賞者コンサート チェンバロに酔いしれる」

国際古楽コンクール〈山梨〉2014 の鍵盤部門で第1位を受賞した、中川岳（なかがわがく）さんによるチェンバロのコンサートを開催しました。中川さんは現在東京大学3年生で、チェンバロは数年前から独学で学んだという異色の経歴の持ち主です。

このコンサートでは、J.S.バッハ作曲「ソナタ ニ短調 BWV964」や、デュフリ作曲「レ・グラース（三美神）」などが演奏されました。チェンバロはバロック時代の作曲家に愛されました。見た目はピアノと似ていますが、弦をたたいて音を出す仕組みのピアノとは違い、弦をはじいて音を出します。音色が優雅で品格漂う雰囲気が魅力的である反面、音量は小さめで鍵盤を押す強さを変えることで音量に変化をつけるのは苦手です。

「チェンバロは改良すべき楽器、廃れた楽器であると思われる方もいらっしゃると思いますが、弾き方によって様々な表情をつけることができる大変表現力豊かな楽器です。私の演奏でそういった魅力を少しでも感じていただけたら」と、語った中川さん。今回が2度目のソロコンサートとのことですが、鮮やかな演奏でお客様を魅了しました。今後のますますのご活躍が楽しみです。



日 時：平成 26 年 11 月 1 日（土）18:30～19:45
会 場：楽器博物館天空ホール
出 演：中川岳 入場者：96 人

イブニングサロンコンサート 「ライアーの響きに包まれる～プラハからの贈り物～」



日 時：平成 26 年 11 月 8 日（土）18:00～19:00
会 場：楽器博物館天空ホール
出 演：ヤン・ブラウンシュタイン 入場者：113 人

チェコのプラハ音楽院ライアー学科の学科長であるヤン・ブラウンシュタインさんをお招きしてライアーのコンサートを開催しました。ヤンさんはヨーロッパの大学でライアー科をはじめて設立したことで知られています。

今回は、シャンソンの「枯葉」、アイルランド民謡の「Ye Lovers All」、J.S.バッハ作曲の「メヌエット BWV1007 より」、など様々なジャンルの名曲、全 16 曲を演奏していただきました。

『ライアー』は英語の呼び名で、ギリシャ語では『リラ』。ギリシア神話の神アポロンが持っている楽器です。ライアーの歴史は古代メソポタミア・エジプト文明まで遡ることができますが、一時期、音楽史から姿を消してしまいました。その後、1920 年代に音楽療法用の楽器として考え出されたのが、現在のライアーです。今日では、ドイツ、スイス、スウェーデン、アメリカ、オランダ、オーストラリア、チェコ、そして日本で独自のライアーが製作されています。ヤンさんがコンサートで使用されていたライアーはオリジナルにアレンジされた楽器という事で、コンサート終演後も、来場されたお客様は、ヤンさんの楽器を持たせて頂いたり、お話しをしたりしていました。ライアーの優しく豊かな響きに会場が包まれ、心休まるひと時でした。

イブニングサロンコンサート

「ガムラン・アンクルン～バリのもうひとつのガムラン～」



日 時：平成 26 年 11 月 29 日（土）18:00～19:00
会 場：楽器博物館天空ホール
出 演：梅田英春、静岡文化芸術大学バリ・ガムラングループ
“スアラ・チャンダ”、静岡大学ガムラン研究会
ゲスト：大久保哲、大野里美、安田冨、松井克宏
入場者：129 人

11 月 29 日（土）にインドネシア・バリ島のガムラン・アンクルンのコンサートを開催しました。演奏は梅田英春さん、松井克宏さん、静岡文化芸術大学のバリ・ガムラングループ“スアラ・チャンダ”、静岡大学ガムラン研究会。そして、バリ舞踊を大久保哲さん、大野里美さん、安田冨さんに披露していただきました。

バリ島の楽器といえばガムランが有名で、当館にも 20 世紀初頭に作られた「ゴング・クビヤル（大編成のガムラン）」が展示してありますが、今回演奏していただいたのは「ガムラン・アンクルン」という小編成のガムランです。大編成の楽器に比べ楽器のサイズもやや小さめですが、音の華やかさは変わりません。本来ガムランの演奏は、死者の魂を弔う儀礼で用いられていましたが、現在では儀礼とは別に、娯楽やコンテストなど様々な場面で演奏され、バリの人々に楽しまれています。梅田先生による解説を交えながら「スカル・スングサン」、「ギラッ」というガムランの演奏や、「トペン・クラス」、「チェンドラワシ」などの舞踊が紹介されました。ガムラン・アンクルンの豪華絢爛な音楽と、煌びやかな衣装やこっけいなお面、指先まで使って体全体で表現されるしなやかな踊りで、バリ島の世界へ引き込まれるようなコンサートでした。

イブニングサロンコンサート 「愛する人を、想う夜～クリスマス・ジャズ～」



12 月 10 日（水）、イブニングサロンコンサート「愛する人を、想う夜～クリスマス・ジャズ～」を開催しました。演奏者の鈴木麻美さん、藤森潤一さん、鈴木辰美さん、星合厚さんは昨年夏にも楽器博物館で演奏していただいた方々です。

コンサートはピアノ、ベース、ドラムによるピアノトリオの演奏からスタートしました。天空ホールが普段とは違う少し大人の雰囲気になると、2 曲目からは鈴木麻美さんのヴォーカルが加わり、「White Christmas」「Santa Claus is Coming to Town」などの聴きなじみのあるクリスマスソングを演奏してくださいました。しっとりとした賛美歌の「Amazing Grace」や、クリスマスソングのスタンダードナンバー「Silver Bells」、

ノリの良い「Joyful Joyful」などの曲もあり、軽快なジャズのリズムに会場のお客様の体も自然と動き出していました。メンバー紹介でそれぞれがアドリブソロを披露すると、会場では大きな拍手が沸き起こっていました。

後半には「愛する人を、想う夜」というコンサートのタイトルもぴったりの「I can't Give You Anything but Love（ささげるは愛のみを）」を演奏してくださいました。それぞれの大切な人を想いながら聴く素敵なクリスマスコンサートになりました。

日 時：平成 26 年 12 月 10 日（水）19:00～20:00
会 場：楽器博物館天空ホール
出 演：鈴木麻美（ヴォーカル）、藤森潤一（ピアノ）、
鈴木辰美（ベース）、星合厚（ドラムス）
入場者：141 人

講座「楽器の中の聖と俗～ラッパの古今・太鼓が響くスリランカ～」

11月から12月にかけて、講座「楽器の中の聖と俗」を開催しました。講師は当館の名誉館長で、大阪音楽大学名誉教授の西岡信雄先生です。今年度全4回のうちの第60、62、63回の模様をお伝えします。

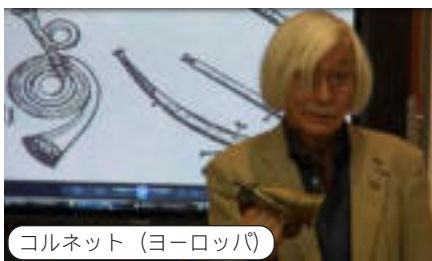
第62、63回のテーマは「ラッパの古今」。東洋編、西洋編と2回に分けて開催しました。東洋編ではオセアニア、中米、南米、西洋編ではヨーロッパ、アフリカのラッパについてお話をしてくださいました。

ラッパ類は、動物の角を吹くことから始まったと考えられているようですが、そこからの発展の仕方が東洋と西洋で異なります。



横吹きトランペット (パプアニューギニア)

東洋のラッパは儀式や信号用の音具、宗教や権力の象徴といった意味合いが強く、メロディーを奏めるのではなく、1つの楽器が出す音は1つだけということが多いのだそうです。素材は様々で、銅などの金属や、木、竹、貝、人骨などがありました。パプアニューギニアの「横吹きトランペット」、ユーカリの幹でできたオーストラリアの「ディジェリドゥー」、日本の「法螺貝」、チベットの人骨ラッパ「ガニラン」などは、当館所蔵楽器の実物を見せながらお話してくださいました。



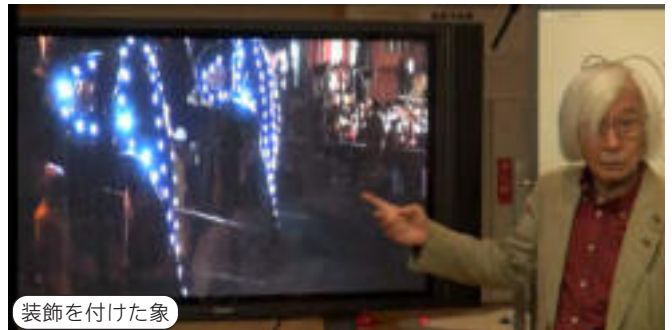
コルネット (ヨーロッパ)

一方、西洋のラッパは東洋とは異なり、メロディー楽器として発達しました。管を長い直管のまま使うのではなく、途中で曲げたり、吹きながら管の長さを変えたりできることに気がつき、時代と共にラッパは変化していきます。その過程の楽器を見ると、たいへんおもしろい形をしているものが多くありました。ヴァルヴ・システムのついているトランペットにさらにスライド・システムがついていたり、ぐるぐると何重にも管が巻いてあったり、思わず笑ってしまうようなラッパも登場し、参加したお客様も興味深そうに見ていました。トロンボーンのスライド・システムやホルンのヴァルヴ・システムなど、今では金管楽器には当たり前のようになっていますが、たくさんの試行錯誤の後に生まれたものなのだと感じました。



ペラヘラ祭りの行列

第60回「太鼓が響くスリランカ①夜祭ペラヘラの大行列」は、スリランカ各地で行われるペラヘラ祭のお話でした。ペラヘラとはシンハラ語で「行列」という意味で、毎年7月の満月から8月の満月までの時期に行われます。祭では太鼓を叩く男たちの群舞や、華麗に舞う女性たちなどと共に、装飾を付けた象が登場します。豪華絢爛な大行列は長時間にわたり行われ、深夜まで続くのだそうです。



装飾を付けた象

観光都市でもあるキャンディと南部の比較的小さな街カタラガマのそれぞれの祭の映像を見ることができました。また、キャンディのペラヘラ祭りで欠かせないのがキャンディアン・ダンスという勇壮な男性の踊りです。このダンスの発祥の地といわれている村の様子では、男性が上半身裸で火を使った荒業も紹介されました。

この講座は開館当初から開催しているもので、毎年好評をいただいています。西岡先生独自の視点で楽器を通して世界の文化を知る興味深い内容です。次回はどんなテーマでお話が聞けるのか、とても楽しみです。

講座「楽器の中の聖と俗」

会場：楽器博物館展示室

講師：西岡信雄

第62回ラッパの古今① 東洋編

日時：平成26年11月10日(月)19:00～20:30

受講者：18人

第63回ラッパの古今② 西洋編

日時：平成26年11月17日(月)19:00～20:30

受講者：15人

第60回太鼓が響くスリランカ① 夜祭ペラヘラの大行列

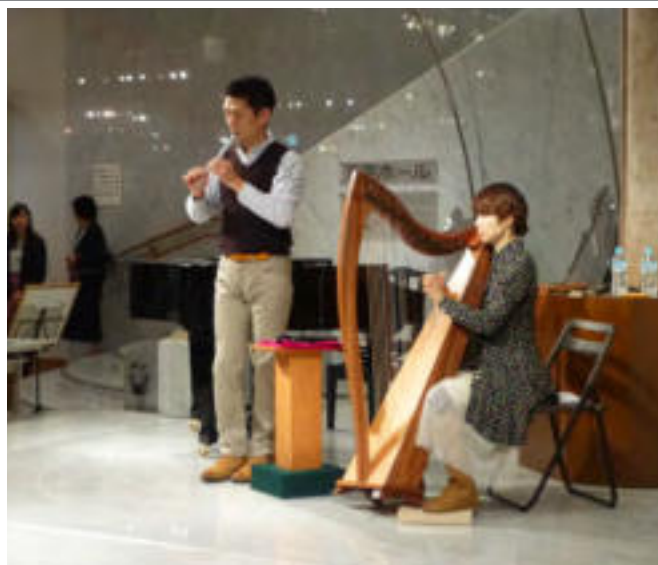
日時：平成26年12月1日(月)19:00～20:30

受講者：13人

冬も大盛況！ 楽器博物館ミュージアムサロン

アイリッシュホイッスルと北欧の笛

笛吹きのはたおさんとアイリッシュハープの上原奈未さんをお招きして、様々な北欧の笛を紹介していただきました。まずはケルトのローホイッスルという笛を演奏していただきました。この笛は温かみのある優しい音色がします。そしてアイルランドのティンホイッスルは普通1人で1本鳴らすのですが、今回は1人で3本同時に口にくわえて「ロンドンデリーの歌」を演奏されました。細くて小さな笛ですが、やはり3本同時となると息の量も多く必要になるので大変との事でした。そして、ノルウェーの柳の笛は指孔がないのですが、笛の先端を指で開けたり閉じたりすると1オクターブ以上の音域が出せるそうです。5種類ほどの笛を紹介していただきましたが、どの楽器も音色が違い、とても興味深いコンサートとなりました。



日時：平成26年11月2日（日）14:00、15:30（各30分）
出演：hatao、上原奈未 入場者：160人



日時：平成26年11月23日（日）14:00、15:30（各30分）
出演：島津成悠、島津成香、伊藤悠世、伊藤章子
入場者：212人

フルート2重奏による クリスマスコンサート

当館職員の小池真梨と前田梨紗がフルート2重奏のコンサートを行いました。「ジングルベル」「サンタが街にやってくる」「きよしこの夜」「ウィンター・ワンダー・ランド」など、おなじみのクリスマスソングもフルート2重奏の響きですと、新鮮に聴こえます。また、ピアノとフルートの演奏もあり、フルート2重奏とは違った音色を楽しむことができました。「フルートは昔はこのような金属ではなく木できていて、こんなにたくさんのキーも付いていませんでした。当館には古いフルートも展示してありますので、ご覧下さい。」と楽器の紹介があり、興味を持ったお客様が展示を見に行く様子も見られました。クリスマスに向けて気分が盛り上がるコンサートとなりました。



日時：平成26年12月13日（土）、14日（日）14:00（30分）
出演：当館職員（小池真梨、前田梨紗）
入場者：96人

楽器博物館友の会「第12回学芸員との夕べ」



日 時：平成 26 年 12 月 6 日（土）
コンサート 17:45 ～ 18:45
会 場：楽器博物館天空ホール
出 演：小倉貴久子、羽賀美歩 入場者：76 人
交流会 19:00 ～ 20:30
会 場：アクトシティ浜松研修交流センター
参加者：52 人

楽器博物館友の会は、博物館を応援して下さる市民の方が中心となって平成 14 年に発足した会です。会員数は現在、個人 281 名・賛助会員 8 団体で、当館活動への積極的な参加のほか、年に 2 回のコンサートや学芸員との交流会開催、会報の発行等の活動を行なっています。

12 月 6 日（土）、友の会主催で「第 12 回学芸員との夕べ」が開催されました。前半は天空ホールでのコンサート。19 世紀に作られた当館所蔵の美しいアップライト・ピアノ 3 台を使い、小倉貴久子さんと羽賀美歩さんが連弾とソロを披露しました。19 世紀当時の上流階級の家では、娘たちがピアノを弾き家族みんなで聴いて楽しむ家庭音楽会が開かれていました。そのような温かい雰囲気再現し、ドビュッシー作曲「亜麻色の髪の乙女」やフォーレ作曲「ドリー」など、どなたでも耳にしたことのある名曲を息の合った演奏で聴かせてくださいました。

後半は会場を研修交流センター 5 階へ移し、会員の方と当館職員、そしてコンサートに出演された小倉さん、羽賀さんも加わり、軽食を囲みながら交流を深めました。友の会主催でこのような機会を毎年設けてくださるのは大変嬉しいことです。「楽器が好き、音楽が好き」という共通の思いを持った会員の皆さんからの応援を強く感じ、職員一同気持ちを新たにしました。

友の会の活動は、当館にとって大変心強い支えとなっています。ご来館をきっかけに世界の音楽や文化に興味を持った方には、友の会に入会いただくことで楽器と音楽についてさらに学びや交流を深め、当館を生涯学習の場として大いに活用していただけたら幸いです。

（1 面より）続いて大会決議の採択と閉会式。決議の要点は 6 つで、自然災害時の連携支援体制の確立、魅力ある博物館を目指しての行動、博物館法改正の要求、文化国家にふさわしい博物館の基盤の制度設計、世界への博物館活動の発信と 2019 年国際博物館会議 ICOM（イコム）世界大会の京都への招致、博物館経費への公的助成制度の創設と充実。

夜は三重県総合博物館を見学しました。総合博物館には、科学、歴史、民俗、美術などの分野があるわけですが、従来は分野ごとに別々の部屋で展示するというのが一般的でした。しかしここでは別々の部屋にすることなく、それぞれの関連性を重視して、1 つの部屋に展示をしています。例えば、雪深い自然と、動物と、鉄砲と、食事と、祈りが、お互いにつながり合っているのがよくわかります。またロビーなどの公共空間は大変広く快適に作られていました。これなら博物館に行き、学習とともにゆっくりとくつろげるのです。

3 日目は近郊の 3 つのコースに分かれての博物館施設の視察で全日程を閉じました。



自然と民俗の総合展示（三重県総合博物館）

浜松市内の中学、高校の職場体験を受け入れました



受け入れ校:浜松市立丸塚中学校 (5人)、浜松市立入野中学校 (4人)、
浜松市立曳馬中学校 (5人)、静岡県立浜松西高等学校中等部 (5人)、
浜松私立佐鳴台中学校 (4人)、静岡県立江之島高等学校 (5人)、
静岡県立浜北西高等学校 (1人)

職場体験学習は、中学校や高等学校の授業の一環として、地域にある様々な職種の事業所に数日間通って生徒が就業体験をする活動です。このような活動は全国的に広まっており、現在ではほとんどの中学校で実施されているようです。当館では10年ほど前から受け入れを始めました。例年7校程度の学校から延べ30名ほどの生徒が博物館業務の一部を体験しています。

実際に体験する主な業務は展示室での対応です。お客様に心地よく見学していただくために、元気よく気持ちの良い挨拶をしたり、展示室のヘッドフォンを整えたりします。来館者として博物館を利用したことはあっても、スタッフとして迎える立場になるのは初めてのこと。展示室にいるスタッフが「何のためにいるのか」「何を考えて仕事をしているのか」など体験を通じて学んでもらいました。その他にも、印刷物の発送準備など、普段は見られない裏方の業務も体験してもらいました。多くの学校は半日勤務を2日間という短い日程ですが、「体験できて良かった」「人とのコミュニケーションの大切さを学べた」というお礼のお手紙をいただきました。「仕事」について真剣に考えるきっかけになったことでしょう。

楽器ワンポイント講座 その5

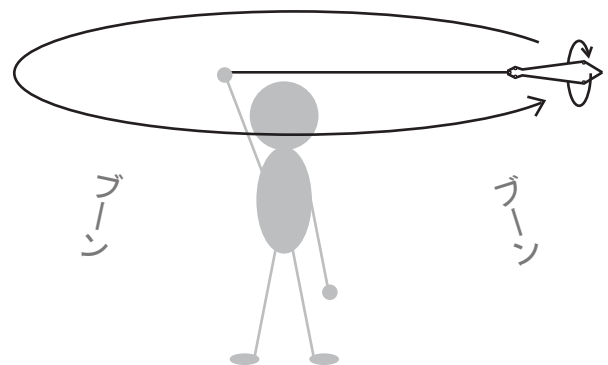
「振り回して鳴らす楽器」

楽器というと叩く、吹く、弦をはじく、こするといった演奏の仕方が一般的ですが、“振り回して鳴らす”楽器もあるんです。

紐の先に板をつけて振りまわすと「ブーン」と音がする楽器で、「うなり板」や「うなり木」と呼ばれます。音が雄牛の鳴き声のように聞こえるので英語ではブルローラー（ブル＝雄牛、ローラー＝吠える）といいます。

アフリカ、アメリカ、ヨーロッパ、オセアニア、オーストラリアなど広範囲に分布します。現存する最古のブルローラーはフランスで出土したもので、先史時代のものと言われています。

用途は様々で、かつては宗教儀道の道具として使われ、風、雷の音、祖先の声、奇怪な獣の声といった音に見立てられていました。また、雨乞いや農耕に関する儀式などに使われます。写真の楽器はパプアニューギニアのもので、魚を意味する形をしています。魚は雨を呼ぶと考えられていますので、鳴らして雨乞いをし、豊作を祈願したのでしょう。



ブルローラーの鳴らし方

楽器博物館コレクションシリーズCD新発売!!



箏の古典と白繭の響き～太助箏による～

CD最新アルバムが2つ出ました。No49「箏の古典と白繭（きぬいと）の響き～太助箏による～」(2枚組)は江戸時代の末から数代続いた、大阪の箏作りの名人、菊岡太助作の箏を含む、3面の箏を収録しています。地無し尺八と三絃も加わり、箏と箏曲の歴史をたどるアルバムです。また、皇后陛下がお育てになった日本産の繭から作られた絹絁を使用していますので、その音色も魅力です。演奏はてん・仁智(箏)、藤井泰和(三絃)、志村哲(尺八)。



シェイクスピアの音楽 リュートに託した恋の歌

No50「シェイクスピアの音楽 リュートに託した恋の歌」は、イギリスの文豪シェイクスピアの劇音楽から恋の歌を中心に収めたもの。使用のリュートは、ドイツに生まれ、ヨーロッパを転々として改造されたもので、名工の作ではありませんが、楽器と社会を考える上では興味深い楽器です。「ハムレット」「お気に召すまま」「真夏の夜の夢」「十二夜」等々、劇中で展開される悲喜こもごもの人間ドラマを演出する音楽は、ソプラノとリコーダーも加わって、しっかりと味わい深いアルバムです。クリスマスの夜にもぴったりです。演奏は佐野健二(リュート)、奥田直美(リコーダー)、平井満美子(ソプラノ)。

博物館日誌

- 11/1 (土) イブニングサロンコンサート
「国際古楽コンクール<山梨>2014 入賞者コンサート
チェンバロに酔いしれる」
18:30 天空ホール 出演:中川岳 入場者:96人
- 11/2 (日) ミュージアムサロン「アイリッシュホイッスルと北欧の笛」
14:00、15:30 天空ホール
出演:hatao、上原奈未 入場者:160人
- 11/3 (月) 文化の日無料入館日 入館者:678人
- 11/4 (火)～6(木) 職場体験学習 浜松市立入野中学校2年生4人
- 11/8 (土) イブニングサロンコンサート
「ライアーの響きに包まれる～ブラハからの贈り物～」
18:00 天空ホール 出演:ヤン・ブラウンシュタイン
入場者:113人
- 11/10 (月) 講座「楽器の中の聖と俗」(全4回)
「ラッパの古今① 東洋編」
19:00 展示室 講師:西岡信雄 受講者:18人
- 11/17 (月) 講座「楽器の中の聖と俗」(全4回)
「ラッパの古今② 西洋編」
19:00 展示室 講師:西岡信雄 受講者:15人
- 11/23 (日) ミュージアムサロン「箏」 14:00、15:30 天空ホール
出演:島津成悠、島津成香、伊藤悠世、伊藤章子
入場者:212人
- 11/27 (木)～28(金) 職場体験学習 浜松市立佐鳴台中学校2年生4人
- 11/29 (土) イブニングサロンコンサート
「ガムラン・アンクルン～バリのもうひとつのガムラン～」
18:00 天空ホール 出演:梅田英春、
静岡文化芸術大学バリ・ガムラングループ「スアラ・チャンダ」
静岡大学ガムラン研究会、
ゲスト:大久保哲、大野里美、安田冨、松井克宏
入場者:129人

- 12/1 (月) 講座「楽器の中の聖と俗」(全4回)
「太鼓が響くスリランカ① 夜祭ベラヘラの大行列」
19:00 展示室 講師:西岡信雄 受講者:13人
- 12/4 (木)～5(金) 職場体験学習 浜松西高等学校中等部2年生5人
- 12/6 (土) 楽器博物館友の会「第12回芸員との夕べ」
コンサート17:45 入場者:76人
交流会19:00 参加者:52人
- 12/10 (水) イブニングサロンコンサート
「愛する人を、想う夜～クリスマス・ジャズ～」
19:00 天空ホール
出演:鈴木麻美、藤森潤一、鈴木辰美、星合厚 入場者:141人
- 12/13 (土) ミュージアムサロン
「フルート2重奏によるクリスマスコンサート」
14:00 天空ホール 出演:当館職員(小池真梨、前田梨紗)
入場者:32人
- 12/14 (日) ミュージアムサロン
「フルート2重奏によるクリスマスコンサート」
14:00 天空ホール 出演:当館職員(小池真梨、前田梨紗)
入場者:64人

これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります
- ギャラリートーク 毎日数回
展示品の解説を行います
- イブニングサロンコンサート
「ビルマの竖琴～サウン・ガウ～」
1/17 (土) 18:30 天空ホール 出演:スザザほか
- 子どものための楽器体験ワークショップ
「雅楽の楽器ひちりきを吹こう」
1/24 (土) 13:30 研修交流センター 講師:中村仁美
「バンジョーをひこう!」
2/1 (日) 13:30 研修交流センター 講師:原さとし
「ポルトガルのタンバリン“アダフェ”を作って演奏しよう!」
2/14 (土) 13:30 研修交流センター 講師:田島隆
- 講座
フォルテピアノとその時代 I「プロローグ:シューベルトの夢」
3/4 (水) 19:00 展示室 講師:筒井はる香
- レクチャーコンサート
〈フォルテピアノとその時代 第1回〉
「冬の旅～フォルテピアノで贈るシューベルトティアーデ～」
3/11 (水) 19:00 天空ホール 主演:平井千絵、近野賢一
「時代を彩るオーボエたち～16世紀から21世紀へ～」
3/25 (水) 19:00 天空ホール 主演:三宮正満、水永牧子

浜松市楽器博物館だより

平成26年12月20日発行 No.95-96
編集 浜松市楽器博物館
〒430-7790 浜松市中区中央3-9-1
TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129
E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp
URL <http://www.gakkihaku.jp/>